

私立短期大学図書館協議会 北海道地区協議会通信

No.45

2024年

3月31日

帯広大谷短期大学附属図書館(編集) 私短図協北海道地区協議会(発行)

第63回(令和5年度) 北海道図書館大会 第1分科会

利用者の多様性に配慮したプレゼンテーション(伝え方)について

札幌市立大学デザイン学部教授 柿山 浩一郎 氏 講演

令和5年9月8日(金) 於:北海道立道民活動センターかでの2・7



【報告】帯広大谷短期大学附属図書館 菅野 杏奈

「これからの図書館を考える～あらゆる情報を、すべての人に～」というテーマのもと、第63回北海道図書館大会が開催されました。対面での北海道図書館大会は令和元年以来4年振り、また、私にとっては初めての対面での図書館大会の参加となりました。

基調講演は「北海道のアイデンティティを確認するための地域アーカイブという考え方」と題し、東京大学名誉教授根本彰氏の講演が行われました。国立国会図書館デジタルコレクションをはじめ、利用者が自分で情報を得やすい時代になったからこそ、博物館・美術館だけでなく図書館も利用者に情報を見てもらうためのキュレーションが重要であるとの提案がありました。資料を集めるだけではなく、利用者に資料を「見てもらう」ためにはどうするか、展示方法や利用方法案内の工夫が必要であると感じました。

トピックは「動画時代の読書と、ローカルにおける書店の実情」と題し、浦河町六畳書房3代目店主・動画配信者の武藤あかり氏の情報提供がありました。動画(視聴・配信)が普及した現状を『推しの時代』と表現し、本に興味を持ち手に取ってもらう(推してもらう)には、本の作者・本を紹介する人など「本の背景に人がいることを感じてもらう」ことが重要、という話が印象に残っています。

私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会が担当した第1分科会では、「利用者の多様性に配慮したプレゼンテーション(伝え方)について」と題し、札幌市立大学デザイン学部教授の柿山浩

一郎氏を講師に迎えました。「一般的な伝わりやすさの向上」「伝達相手の捉え方と効果的に伝わる手段の選定」の2つをテーマとし、情報の伝わりやすさをデザイン学の観点から考えることは、日頃から様々な人に接する機会の多い図書館職員にとって非常に勉強になりました。デザインの基本となる色彩・フォント・構成の重要性を再確認すると共に、伝えたい情報に合わせて選択するテクニックが、伝わりやすい資料を作る上で大切であると学びました。また、世代の情報活用能力による認識の違いについてはとても興味深く、近年の若者(Z世代)はプレゼンテーションにおいても従来とは違うアプローチをした方が理解度は高いのではないか?という話は大変参考になりました。当図書館の主なターゲットはZ世代である学生たちです。学生たちに寄り沿った見せ方・アプローチ方法を考え、利用の促進につなげられたらと思います。

今回の図書館大会を通して、利用者が自ら情報

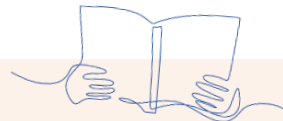


柿山浩一郎先生

を得られる手段が増えたからこそ、持っている情報資源をどのように提供するかがこの先の鍵になると感じました。図書館は『知の宝庫』と言われますが、その宝物を持ち腐れではなく輝かせるためにどんなことができるのか。表現方法、周知

方法など、様々な方法を模索し、利用者の求めに対してアプローチしていくことが、これからの図書館に求められるのではないかと思った大会でした。

北海道地区協議会令和5年度研修会



まね ゼミ「利用者は司書に真似ぶ」を語り合う 演習「図書館で本と出会う即興劇」

講師：元鳥取短期大学司書課程教員 宍道 勉 氏

令和5年12月8日(金) 於：北海道武蔵女子短期大学附属図書館

【報告】北海道武蔵女子短期大学附属図書館 別宮 玲子

令和5年度の研修会は、鳥取県から宍道勉先生を招いて開催いたしました。各短期大学の図書館員や教員が参加し、自己紹介では、「司書の道を選んだきっかけ」をお互いに披露し合いました。

ゼミでは、急速に進むデジタル化の中、現代の図書館はいずれも司書と利用者の間が、ますます「空疎」になっているようで、それを「充実」に変えることが、図書館の活性化に繋がるということを抑っていました。また、その方法として、図書館は臨床の場で、「利用者が司書の活動を共にし、図書館を学ぶ（真似ぶ）ことが重要だ」ということでした。

レファレンスサービスや利用者教育に於いて、司書は利用者との対話を大切に、共に問題を解決していくことの重要性をあらためて考える機会となりました。

他にも、司書時代に友人から「図書館のドン・キホーテ」と名付けられたことや、現在活動している「子ども英語探検隊」について、楽しいエピソードを交えて教えてくださいました。

演習では、先生が考案した「図書館で本と出会う即興劇『どんぐりとヤマネコ裁判』」という読書プログラムを楽しみました。

まず、各々が「嫌いな、面白くない本」を自分の感覚で図書館の書棚から選び、10分間読んだ後、嫌だと思ふ点や面白くない点をカードに書きま

す。

その後、自分以外の参加者が選んだ本とカードを回し読みし、選んだ本人の訴えを聞いた後、本当にその本が「悪い本」であるか裁判を行います。ひとりでも弁護をする者がいれば、その本は「無罪」となります。弁護を受けることなく、満場一致で「有罪」となる本もありました。お互いが本について語り合い、大いに盛り上がりました。

演習後の意見・情報交換では、『どんぐりとヤマネコ裁判』を授業に取り入れた経験のある司書から「学生には好印象であったし、楽しんでいたのを実感できた。しかし、その様子を見学していた教員には、面白さが伝わらず、授業で再び取り入れたいと思わせることが出来なかった」という事例が報告されました。

他の参加者達も、司書と教員による授業連携や、読書プログラムの魅力の伝え方に難しさを感じており、工夫できる点などを考えて、意見を交換いたしました。

利用者が「図書館は知るを楽しむ場」だと気付くために、司書はどのような活動を共に行えば良いのでしょうか。また、どんな支援が必要で、支援への賛同を得るために何が出来るのでしょうか。図書館が抱える課題を浮き彫りにし、「司書と利用者の対話」の大切さをあらためて学んだ研修会でした。



令和5年度 各館の活動報告

できることから少しずつ ～「合理的配慮」始めました～

帯広大谷短期大学附属図書館 水野 有子

令和6年4月、行政機関に続き私立大学を含む事業者においても「障害のある人への合理的配慮の提供」が義務化されます。図書館における「障害者サービス」は元来、利用者への社会的不利をもたらす障害が図書館側にあるとする社会モデルですが、観点の異なる「合理的配慮」では何ができるだろうと以前から思索していました。

大学における合理的配慮とは、支援者側に過度な負担を課すものではなく、学生の「教育を受ける権利」を確保するために行う必要かつ適当な変更・調整を指します。支援者の負担が大きい配慮では当然持続も難しく、結果として学生本人にしわ寄せが及ぶ可能性があります。

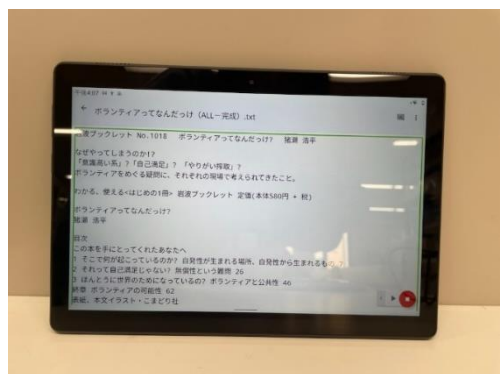
それを踏まえ図書館として何ができるかを考えたとき、まず思いついたのが著作権法第37条「視覚障害者等のための複製等」でした。善は急げと、著作権法改正に伴いサービスの範囲が拡充した「視覚障害者等用データ送信サービス」の送信承認館への申請と並行し、当館独自で行うサービスの構想を練りました。

そうして始めたのが「資料電子化サービス」です。さまざまな理由で紙の本に読みづらさを感じている学生の求めに応じ、利用を希望する資料の電子データを入手または作成し提供するものです。他館の先例は目にしていたものの、職員の少ない当館では無理だろうと検討さえてきましたが、この機に「できる範囲で続けられること」を模索し、当館ならではの形に行き着きました。

電子データ作成といっても、活字を一冊丸ごと

文字起こしするような大掛かりなものではありません。既存の機器やクラウドストレージサービスの機能を活用し、少しの手間と時間を充てることで、文字の拡大、文字方向切り替え、音声読み上げ、フォントサイズや色の変更が可能な電子データを作ることができます。学生から申し込みがあればすぐに対応できる態勢を維持しつつ、シラバス掲載のテキスト類や参考資料など継続的に利用が見込まれる資料については、申し込みが来るその日のために、業務の合間を縫って少しずつ作成しています。

「だれもが利用できる図書館」への道は、DAISY図書やLLブックを取りそろえることだけに留まりません。利用方法をやさしい言葉で伝える、NDCピクトグラムを導入する、手話はできなくてもすぐに筆談できるよう準備をしておくなど、できることから少しずつ、無理のない範囲で進めていきたいと思います。



作成した電子データを格納した貸出用タブレット

令和5年度の活動を振り返って

釧路短期大学附属図書館 菊地 正明

令和5年3月末日、長きにわたり当館の屋台骨を支えてきた渡辺課長補佐が退職し、4月から新たに職員1名を迎えた新体制での運営がスタートしました。

新型コロナの流行以降、尾を引き続ける利用の

低迷という苦境も相まって、不安や戸惑いが先立つ厳しい船出となりましたが、突如飛び込んだ新型コロナ「5類」引き下げの吉報は現状打開の糸口になるものと確信しています。

そこでまず取り組んだのが、要望をいただきな

がらも長らく休止していた学習支援事業の復活です。図書館運営の安定化を図るためにも、業務の洗い出しと整理を優先しつつ、『のぞいてみよう釧路はこんなところ』(下)の発刊とそれにとまなう公開講座の開催に着手しました。

これらは本学生涯教育センターとともに進めてきた事業で、上巻は商工会議所が主催する「くしろ検定」の参考書的な立ち位置として、令和2



発刊したテキスト

年3月に制作しましたが、検定自体がコロナ禍のあおりを受けて終了となり、下巻の制作は長く暗礁に乗り上げていました。

しかし、地域の歴史や課題を知ってもらうためにも本誌は制作すべきとの考えを固め、ようやく発刊へと漕ぎつけました。著者と上巻発刊時の館長による記念対談も実現し、60名を超える市民の参加をもって成功裏に終了することができました。

とはいえ、利用者に強いてきた不便を帳消しにするには程遠く、いまだ図書館の利用に回復の兆しは見えていません。引き続き利用者の声に耳を傾け、図書館の必要性・有用性を地道に示していくことが、打開への一歩であろうと考えます。

頑健な柱を失うも、新たに強くなやかな支えを得た本年。従来の方針に新たな風を取り込みつつ、これまで以上の気概をもって運営にあたる所存です。

令和5年度の図書館活動について

國學院大學北海道短期大学部図書館事務室 西村 千夏

令和5年度は、主に3つのイベントを開催しました。

1. 講演会「小説家に大切な3つの“あい”とは～『さくららら』を中心に～」

本学兼任講師で「文芸創作基礎B・展開B」の講義を担当されている児童文学作家・升井純子氏と、共著『さくららら』の写真撮影を担当された写真家・小寺卓矢氏を講師にお招きし、文芸創作の講義内容や執筆活動について、『さくららら』制作秘話等をお話いただきました。

参加者からは「創作をする元気が湧いた」等の前向きな感想を聞くことができました。

2. 展示企画「16のミラーブッカー16タイプ別診断で憧れのあの人物と自分を重ねる～」

学生アルバイト4名が主体となって作り上げた展示です。

最近流行している「MBTI診断」をベースに、俳優・スポーツ選手・小説の登場人物等、幅広い人物のタイプを推測して分類し、関連図書と併せて紹介しました。

教職員の結果も併せて展示したり、訪れた学生

に性格診断テストを行ってもらい、本学にはどのタイプが一番多いのかを調査したことで、学生がより身近に感じられる企画となりました。

これまで図書館を利用したことのない学生や興味を持った教職員も沢山訪れ、最近の流行に注目した学生アルバイトの皆さんの発想とひらめきに驚かされました。

3. 「ボードゲーム体験会 in 図書館」

文学や児童書に関するゲーム等で遊びながら、学科を超えた学生同士や学生と教職員との交流を深める場として、また、学生にとって図書館が新たな居場所になることを目的として開催しま



「16のミラーブッカー16タイプ別診断で憧れのあの人物と自分を重ねる～」展示の様子

した。

初の試みでしたが、参加者からは「新たな友達
ができた」「ボードゲームの楽しさを知り、サークル
に入ってみたいと感じた」等の声を聞くことが

でき、笑顔溢れる時間となりました。

今後も様々なイベントを開催できたらと考えて
おりますので、その際は是非足をお運びいただけ
ますと幸いです。

XX

イベントに賑わい再来

拓殖大学北海道短期大学図書館 堤 香 苗

業務面での大きな変化として、長年の課題であ
った図書館システムを令和4年12月に導入し、
令和5年4月より図書館システムを用いたカウン
ター業務を開始しています。

新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが
5類に引き下げられたことを機に、本学で開催す
るイベントには多くの学外の方が来場され、図書
館にもそれぞれのイベントに合わせた企画に多
くの方が参加されました。大学祭は図書館特別企
画として「どちらがえらい、ムギ vs. コメ」を開催。
環境農学コースの学生がムギ派とコメ派に分か
れ、「どちらがおいしい?」「どちらがとれる?」
「どちらがもうかる?」等6つの観点からプレゼ

ンし、どちらがえらいかを来場者が判定するとい
う企画です。プレゼン者の近くに米と麦に関する
本も展示しました。同時に開設した「絵本・折り
紙コーナー」は地域の保育園児さんと引率の先生
をはじめ、複数組のお子様と保護者様に利用され
ました。7月の農場公開デーに設置している「農
業書ピックアップコーナー」、12月に開催する農
業セミナーに合わせた「農業書フェア」にも来場
された学外の方に関心を持っていただきました。

6月、北海道立図書館の電子書籍に、レポート
に関連するコンテンツが豊富にあることから、本
学学生・教職員が積極的に利用できるよう団体利
用登録を行いました。何度も事前打ち合わせくだ
さった北海道立図書館様には心より感謝してお
ります。

恒例となった図書館ボランティア学生の選書
ツアーを令和5年度も実施。3名の学生が33冊
を選書し、親しみやすい本は学生の間で好評を得
ています。

第11回本のPOPコンクールには5名5つの
応募作品を図書委員会で審査し、1月に記念品贈
呈式を行いました。全ての応募作品を3月末まで
図書館内に展示しています。



第57回黎明祭図書館特別企画
「どちらがえらい、ムギ vs. コメ」

新図書館システムへ移行 ～「セルフ貸出」導入～

北海道武蔵女子短期大学附属図書館 柳 橋 望

令和5年8月末。これまで20年以上お世話に
なっていた図書館システムから新システムに移行し
ました。保守終了により、令和5年1月から運用
開始となった新NACSIS-CAT/ILLに対応できな
くなったことが見直しの主な要因でした。

新たに導入したシステムはブレインテック社
の「情報館」です。導入の決め手は何よりもコス

ト面でしたが、手厚いサポート体制があることも
大きな理由でした。また、基本機能として「セル
フ貸出」機能があり、利用者である学生・教職員
が自身で貸出を行えるようになったことは大き
な変化といえます。幸いにも学生達に好評で、さ
っと利用方法を理解して借りていく姿が良く見
られます。

もちろん、カウンターでの貸出も並行して行っていますので、利用者はどちらでも好きな貸出方法を選べます。また、セルフ返却の機能は利用していないため、返却処理は変わらず職員が対応しています。

カウンターは利用者との関係性を築く重要な場所です。その機能の一端をセルフ化することに躊躇いがなかったとは言えません。しかし、その分をレファレンスなど重要な業務に充てられることとなります。今後はサポートを必要とする利用者により司書の専門性を発揮できるよう環境

を整えていきたいと思えます。



タッチパネル式のノートPCをセルフ貸出機として使用

令和5年度・日誌

—2023年—

- 4月28日
北海道地区協議会令和5年度第1回役員会・総会開催（Web会議）出席5館/委任状1館
- 5月11日～12日
私短図協全国理事会・総会出席
- 6月14日
令和5年度第1回北海道図書館連絡会議兼第63回（令和5年度）北海道図書館大会運営委員会（第3回）会議出席
- 6月16日
総会記録及び会費請求書送付
- 9月7日～9月8日
第63回北海道図書館大会出席（会場：かでの2・7、テーマ：これからの図書館を考える～あらゆる情報を、すべての人に～）
第1分科会「利用者の多様性に配慮したプレゼンテーション（伝え方）について」の企画・運営を担当
- 11月24日
令和5年度第2回北海道図書館連絡会議兼第64回（令和6年度）北海道図書館大会運営委員会（第1回）会議出席
- 11月30日
日本図書館協会事務局へ「私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会本年（2023年）の動き」を送信
- 12月5日
北海道地区協議会令和5年度第2回役員会開催（メール会議）

●12月8日

私短図協北海道地区協議会令和5年度研修会開催（会場：北海道武蔵女子短期大学附属図書館、テーマ：利用者は司書に真似ぶ）

—2024年—

- 1月18日
第64回（令和6年度）北海道図書館大会運営委員会（第2回）会議出席（Web会議）
- 1月26日
日本図書館協会事務局へ「『各県別概況 北海道』北海道内短期大学図書館の概況（2023年1月～12月）」を送信
- 2月5日
北海道地区協議会令和5年度第3回役員会開催（Web会議）
- 2月27日
令和5年度第3回北海道図書館連絡会議兼第64回（令和6年度）北海道図書館大会運営委員会（第3回）会議出席
- 3月31日
「北海道地区協議会通信 No.45」発行

令和5年度 会長及び役員館

- ◎会長 河村 芳之（北海道武蔵女子短期大学附属図書館長）
- 監事館 帯広大谷短期大学附属図書館
- 監査館 釧路短期大学附属図書館
拓殖大学北海道短期大学図書館
- 事務局 北海道武蔵女子短期大学附属図書館